

# 都市計画道路横浜藤沢線川名工区 環境調査結果(概要)

## 1. 目的

都市計画道路横浜藤沢線川名工区については、平成21年から平成23年にトンネル構造への変更について地元説明会等を開催した際、環境への影響を懸念する意見が多かったことから、トンネル構造に変更した場合の影響等について調査検討を実施いたしました。

この度、この調査検討が完了したことから結果概要をお知らせするものです。

## 2. 横浜藤沢線の概要



### 3. 都市計画道路横浜藤沢線川名緑地環境影響評価検討委員会の概要

都市計画道路横浜藤沢線の整備に伴う貴重な緑地である川名緑地の動植物等自然環境への影響及び保全対策について技術的な検討を行うことを目的として、緑地やトンネルに詳しい学識経験者3名を含む5名の委員による検討委員会を平成22年12月設置し、その後、平成25年8月までに計5回検討委員会を行い、平成25年12月に報告書を取りまとめました。

### 4. 環境調査結果の概要

#### 【大気質・騒音・振動の現地調査・予測結果】

現地調査については、計画路線をトンネル構造へ変更した場合に生活環境への影響が最も大きいと想定されるトンネル坑口予定箇所付近(新屋敷地区・川名地区)において、大気質、騒音、振動の現地調査を行いました。

予測結果については、道路事業で一般的に用いられている方法で予測したところ、ほとんどの調査項目・地点で、基準値を下回りました。

なお、川名地区における昼間と夜間の騒音で1地点のみ基準値を上回りましたが(表の赤字箇所)遮音壁等を設置することで基準値を下回る予測結果となります。今後、詳細設計を進めて行く中で、改めて環境保全措置の検討を行います。

#### (新屋敷地区の予測結果概要)

大気質			騒音(単位:dB)				振動(単位:dB)		
項目	予測値	基準値	地域	区分・高さ	予測値	基準値	区分	予測値	基準値
二酸化窒素(ppm)	0.033~0.037	0.06	道路から20m	昼間1.2m	53~63	70	昼間	35~51	65
				昼間4.0m	57~67				
				夜間1.2m	46~56	65			
				夜間4.0m	51~61				
浮遊粒子状物質(mg/m <sup>3</sup> )	0.052~0.053	0.10	道路から20~50m	昼間1.2m	52~56	65	夜間	33~49	60
				昼間4.0m	57~61				
				夜間1.2m	46~49	60			
				夜間4.0m	51~54				

#### (川名地区の予測結果概要)

大気質			騒音(単位:dB)				振動(単位:dB)		
項目	予測値	基準値	地域	区分・高さ	予測値	基準値	区分	予測値	基準値
二酸化窒素(ppm)	0.035~0.049	0.06	道路から20m	昼間1.2m	58	70	昼間	43~52	65
				昼間4.0m	62				
				夜間1.2m	52	65			
				夜間4.0m	56				
浮遊粒子状物質(mg/m <sup>3</sup> )	0.053~0.054	0.10	道路から20~50m	昼間1.2m	57~67(63)	65	夜間	41~50	60
				昼間4.0m	60~69(65)				
				夜間1.2m	50~60(56)	60			
				夜間4.0m	54~62(58)				

( )は環境保全措置を実施した場合の予測値

【川名緑地及びその周辺における動物・植物の現地調査・予測結果】

現地調査について、いずれの調査項目も、関東地方の平野部から丘陵地で一般的な種が確認され、そのうち、環境省や神奈川県が選定している重要種も確認された。

予測結果について、計画路線の大部分はトンネル部であり、動物・植物の生息・生育箇所は、工事の実施及び道路の存在による直接的改変を受けないことから、重要な種の生息・生育環境への影響は小さいと考えられます。

調査項目	確認種数	概要	重要種数
哺乳類	8科8種	関東地方の平野部から丘陵地で一般的に確認される種がみられた。(アカネズミ、タヌキ等)	-
鳥類	27科35種	森林や林縁で一般的に確認される種がみられた。(シジュウカラ、ウグイス、メジロ等)	10科10種
両生類 爬虫類	8科11種	関東地方の平野部から丘陵地で一般的に確認される種がみられた。(アマガエル、ウシガエル等)	5科6種
昆虫類	170科583種	関東地方の平野部から丘陵地で一般的に確認される種がみられた。(トンボ類、バッタ類、ホタル類、ゾウムシ類、テントウムシ類、チョウ類等)	4科6種
魚類	4科6種	流水、止水環境で一般的に確認される種がみられた。(ブルーギル、オオクチバスなど)	2科3種
底生動物	56科113種	流水、止水環境で一般的に確認される種がみられた。(ユスリカ類、アメンボ類など)	6科6種
植物	103科323種	関東地方の平野部から丘陵地、里山環境で一般的に確認される種がみられた。(コナラ、クヌギ、ヨシ、オギなど)	1科1種

【川名緑地及びその周辺における地下水等の現地調査・予測結果】

現地調査について、川名緑地内の湿地等の下は固い岩盤となっており、不透水層であること、また湿地等の水源は、雨水等が貯留されたものであることが把握されました。

予測結果について、川名緑地内の湿地等の水源は、雨水等が貯留されたものであり、トンネル構造物が湿地等の水源に影響を及ぼす可能性はほとんどないと予測されます。